

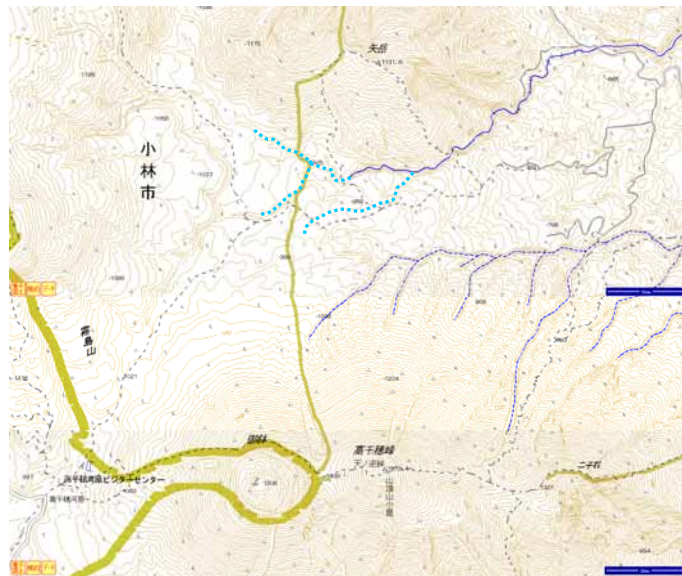
1. 高千穂峰北側の状況(矢岳川上流域)

(調査実施日:6月23日)

平成23年6月15～23日に梅雨前線の影響により、高千穂北側斜面に位置する矢岳地点において時間最大35mm(6/16 9:00)、累加雨量690mm の大きな降雨が観測された。

6月14日の調査により、矢岳川上流域においては、ごく小規模な土石流が発生した状況が確認されていたが、今回踏査した中流域の緩勾配区間では、土石流堆積物の特徴を有する土砂の堆積は確認されなかった。しかし、本川、支川とも、上流から流出してきた今回の噴火に伴う火山灰、火山礫と考えられる堆積物が横断方向にほぼ水平に堆積し、河床が80cm以上上昇している箇所も確認される等、土砂流出が著しい。ただし、調査時点では、下流の砂防堰堤等への顕著な土砂流出は確認されていない。

24時間無降雨でリセット



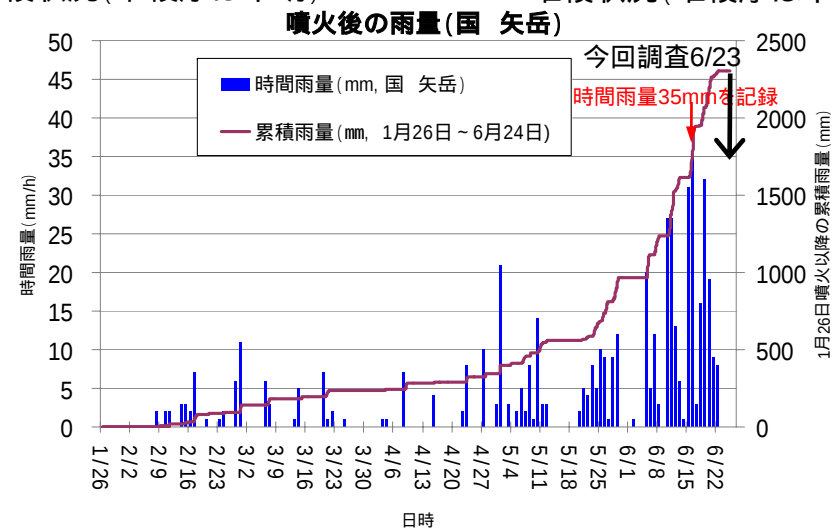
矢岳川上流域 調査箇所位置



地点(矢岳川本川)の流出土砂の堆積状況(堆積厚は不明)



地点(矢岳川本川)の流出土砂の堆積状況(堆積厚は不明)



矢岳川支川の状況



地点の流出土砂の堆積状況 (少なくとも80cm以上堆積と推測される)



地点の痕跡水位



地点の左岸側の堆積厚 80cm以上



地点の流出土砂の堆積状況



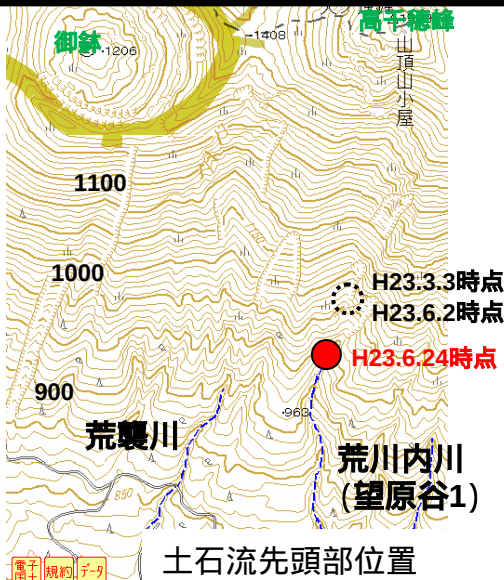
地点の流出土砂の堆積厚 約50cm

2. 高千穂峰南側の状況(荒川内川(望原谷1)上流域)(調査実施日:6月24日)

平成23年6月15～23日に梅雨前線の影響により、高千穂南側斜面に位置する荒川内地点において時間最大60mm(6/16 9:00)、累加雨量 605mmの大きな降雨が観測された。

荒川内川(望原谷1)上流域の土石流の堆積状況は前回調査(6月2日)時点と比較すると、土石流先端部の位置は、下流に150mほど前進していた。途中流下区間では、河床は洗掘されて、概ね低下しており、地山まで洗掘されている状況も認められた。一方、流下区間縁辺部の自然堤防地形はさらに顕著となっており、前回までで確認した土石流を上回る規模の土石流が流下したものと考えられる。なお、これまでのところ、下流には土砂は流出していない。

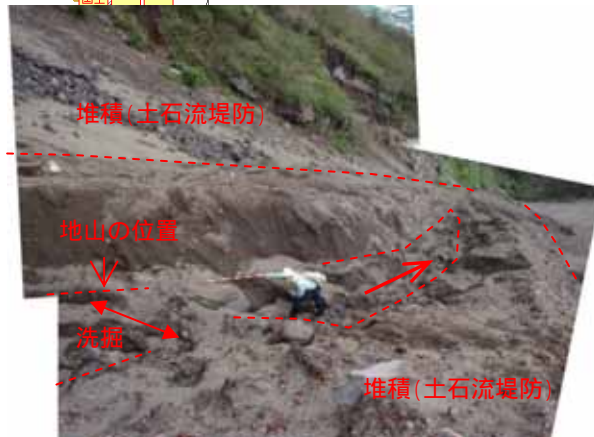
24時間無降雨でリセット



6月24日 土石流の流下・堆積状況



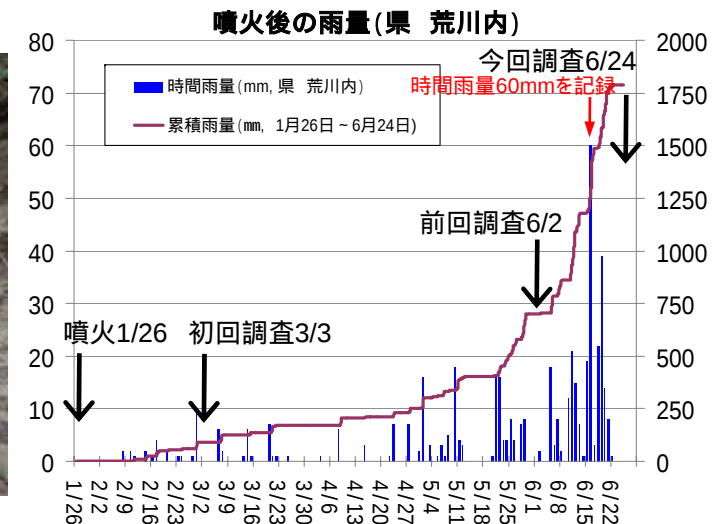
6月24日 土石流堆積状況遠景
(右岸側斜面より)



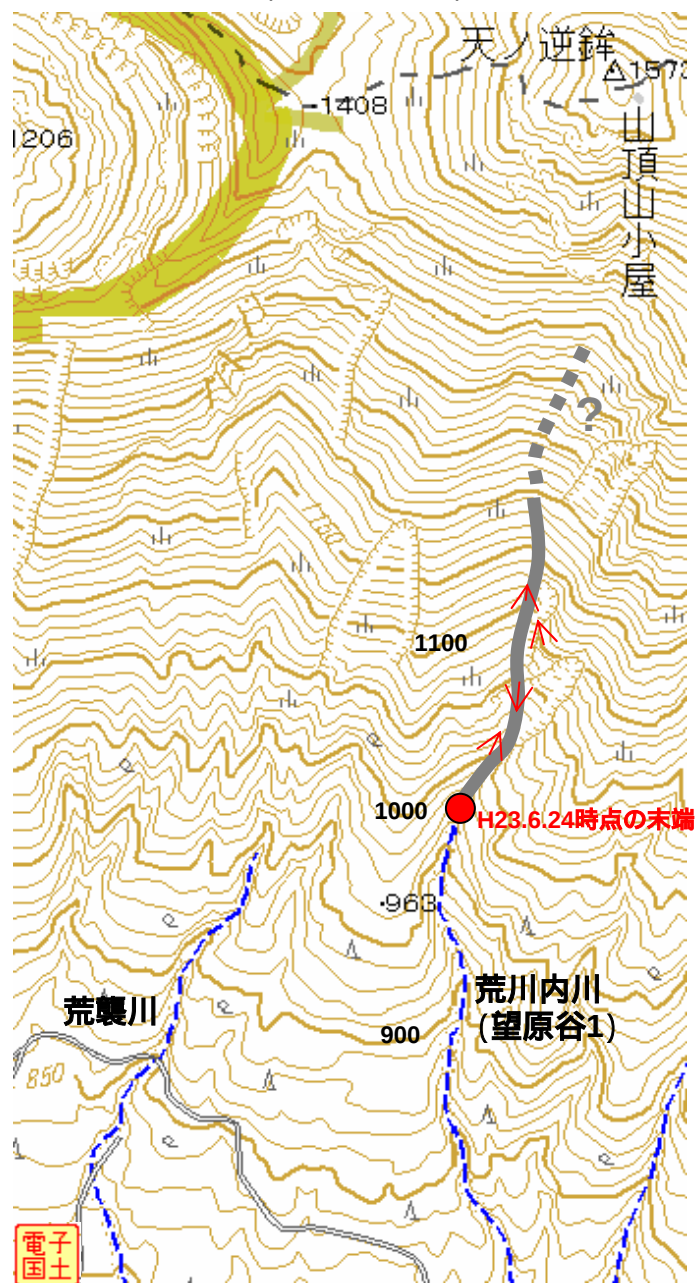
6月24日 土石流の堆積と地山の洗掘状況



6月24日 土石流末端付近(標高約980m)



荒川内川(望原谷1)上流域の土石流堆積状況の比較(1)



比較写真の撮影位置



6月2日



3月3日



6月24日



6月24日

写真中の大径礫はもともと埋没していたものが周囲の土砂が流失して露出して見えているだけであり、土石流として上流から流れてきたわけではない。

荒川内川(望原谷1) 上流域の土石流堆積状況の比較(2)



6月2日



6月24日



横ポールは地山の位置



3月3日



6月24日



3月3日



6月24日

まとめ

- 高千穂峰の北側と南側では、土砂流出の状況が異なる。
（北側）上流域で小規模な土石流の発生が多数確認され、土石流状態ではないものの、中流域へ土砂が流出・堆積している。
（南側）上流域で小規模な土石流の発生は確認されるが、それより下流への土砂の流出は見られない。

高千穂峰の北側と南側では、北側の方が全般的に降灰量も多く、これまでのところ降雨量も多い。これらの状況から北側の矢岳流域で土砂の移動が活発となっていることが考えられる。